

I 2017年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2017年度大学評価結果総評】

キャリアデザイン学部においては、2016年度から1年生全員を一堂に会して新入生オリエンテーションを実施する方式を見直し、少人数の基礎ゼミの授業において、卒業までを見据えた履修のあり方や、学部での学び等について個別的で丁寧な指導を行っている。こうした指導が、1年次秋学期の必修科目（キャリア研究調査法）の選択や2年次春学期における3領域の入門科目の履修および領域選択に活かされている。こうした新たな取り組みは、他の学部の参考となる実践として高く評価できる。

また、就職支援に関して、キャリアアドバイザーによる取り組み、就職委員会による説明会、学生と企業の人事担当者との交流会の実施など、本学部の独自性を活かした積極的かつきめ細かな指導がなされており、こうした点についても優れた実践例として高く評価できる。

企業・学校・コミュニティなどとの関わりを通じた体験的な学びとスキルの習得を目的とした体験型授業を必修科目に位置づけ、知識と体験の統合を促すカリキュラムは、本学部の特性を活かした優れた実践であり、キャリア教育に向けての大きな柱となることが期待される。こうした体験型選択必修科目に関して、外部との連携のあり方を今後さらに検討していくことが期待されるとともに、その有効性に関する検証についても引き続き取り組むべき課題であると考えられる。さらに、学生の国際性の涵養を目的とした「キャリア体験（国際）」についても、体験型科目との連携を図りながら、2018年度以降の実施に向けて、検討を進めていくことが期待される。

【2017年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400字程度まで）

大学評価委員会から特に改善意見は出されておらず、引き続き適切な学部運営により、教育研究の質の維持・向上に努めることとする。2015年度に完成年度を迎えた現行の教育課程については、質保証の観点からの点検を継続的に進め、従来に引き続き必要に応じて改善を行うこととしている。特に本学部の特色である体験型授業については、インターンシップの拡大等社会情勢の変化を踏まえて、学部の独自性・先進性を発揮すべく外部との効果的な連携の在り方についての検討を進め、カリキュラム内容や体験の内容について改善を図ることとしている。2018年度から台湾で実施する「キャリア体験（国際）」については、初年度にあたる2018年度にはカリキュラム評価も行い、この授業の効果的な運営を図ることとしている。

【2017年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

キャリアデザイン学部では質保証の観点から点検を継続的に進め、教育・研究の質の維持・向上に努めている。

キャリア教育の大きな柱である体験型選択必修科目に関しては、外部との連携のあり方とともに、その有効性に関する検証が課題であるとの2017年度大学評価委員会の指摘に基づき、さらに具体的に踏み込んだ検討が望まれる。台湾に於ける「キャリア体験（国際）」の準備は順調に進められ、2018年度にはベトナムとともに実施の運びとなり、高く評価できる。実施後にはカリキュラム評価も行われられるので、その有効性が期待される。

II 自己点検・評価

1 理念・目的

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

【理念・目的】

キャリアデザイン学部は、「キャリア（生き方）」を個人が主体的に考え、設計する必要性の高まりを背景として、「自由と進歩」という本学の建学の精神を踏まえ、生涯学習社会におけるキャリアデザインの歴史と現状、課題、キャリアデザインの理論と方法、政策等に関する教育・研究を行うことを目的として、日本で最初の学部として2003年4月に設置された。

キャリアデザイン学部は、個人の学びや発達に視点を置く「発達・教育キャリア」、産業社会のなかでの職業キャリアの展開に視点を置く「ビジネスキャリア」、家族や地域を含めた人生のあらゆる場における人と社会のあり方に視点を置く「ライフキャリア」の3つの領域を教育・研究の枠組みとして設定している。

研究の面では、既存の学問領域における研究成果を基礎に置きつつ、これまでとは異なる社会のしくみの中の「キャリア」をめぐる新たな課題に応じていく。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

教育の面では、「自己のキャリアを自らデザインすることのできる自律的／自立的人材」を養成すると同時に、上記の3つの領域において「他者のキャリアのデザインや再デザインに関与しつつ、その支援を幅広く行うことのできる専門的人材」を養成する。

【人材の育成に関する目的及びその他の教育研究上の目的】（教育目標）※学則別表（11）

キャリアデザイン学部は、「自己のキャリアを自らデザインすることのできる自律的／自立的人材」であると同時に「他者のキャリアのデザインや再デザインに関与しつつ、その支援を幅広く行うことのできる専門的人材」を養成する。少人数演習型授業と講義科目、体験型授業の3つの学習形態を通じ、かつ「発達・教育キャリア」「ビジネスキャリア」「ライブキャリア」の3領域における専門的な学びを通じて、上記の人材の育成を体系的に行う。

①学部（学科）として目指すべき方向性等を明らかにした理念・目的が設定されていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
②学部（学科）の理念・目的は大学の理念・目的を踏まえて設定されていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
③理念・目的の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。	

（～400字程度まで）※検証を行う組織（教授会や各種委員会等）や検証の時期等、具体的な検証プロセスを記入。

本学部では、2003年の設置以降、教育課程の大幅な改編を2回実施し、それ以外にも現状分析等を踏まえ適宜見直しを実施してきた。見直しの際には、教務委員会のみならず3領域から選出された委員による検討委員会を組織して集中的な議論を行い、学部教授会において大学及び本学部の理念・目的に照らして内容の検証を行っている。

本学部の理念・目的に照らすと、学部教育に対する学外からの視点は重要である。毎年開催する学部シンポジウムでは、学部教育に深く関連するテーマを取り上げ、本学部による実践事例の報告、それをめぐる学外の専門家とのディスカッションを行っている。また、学部設置の法政大学キャリアデザイン学会では、教員や外部講師による研究発表、意見交換を行う研究会を定期的に開催している。こうした機会をとらえ、学部が養成しようとする人材像の適切性について社会的な視点から点検することとしている。さらに、企業の人事担当者を招いて就職ガイダンスを兼ねて開催する意見交換会も、学部がめざす人材像の検証に役立っている。

1.2 大学の理念・目的及び学部・研究科等の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

①学部（学科）の理念・目的は学則又はこれに準ずる規則等に明示していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
②どのように理念・目的を教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか。	

（～400字程度まで）※具体的な周知・公表方法を記入。

本学部の理念・目的は、大学案内、学部パンフレット、履修の手引き、HP等により明示し広く公表している。学生や保護者に対しては、学年毎の新年度オリエンテーション、授業、学生研究発表会（父母も参加可能）を通じて適時周知を図っている。

対外的には、学部シンポジウムの開催、高校における模擬授業、オープンキャンパスの開催、進路講話の実施、学部創設10周年を記念した出版物『キャリアデザイン学への招待』（ナカニシヤ出版）の増刷、学部紀要や学会紀要の発行、研究会の開催、教員による教科書執筆、学会発表、論文発表、インターネット授業 schoo への科目提供、教員の研究紹介の動画作成、高校生のゼミ体験希望を受け入れるオープンゼミ、マスコミへの対応等を通じて、社会的認知を得るよう努めてきた。近年は、ソーシャルメディアを用いて、よりインタラクティブな周知等を行っている。

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
本学部は、キャリアデザイン学という現代社会の構造変化と極めて密接に関連する領域において教育研究を行っていることから、学外の専門家・実務家との連携は極めて重要である。授業に学外からゲスト講師を招いて多様な視点からキャリアデザインにアプローチすることをはじめとして、毎年実施している学部シンポジウムや法政大学キャリアデザイン学会における研究会の開催等により、組織的に学外と連携を行っている。また、教員個人の活動も、アカデミックな学会のみならず学外の研究会、委員会の参加等により産官学と多様なネットワークを形成しており、学部の教育研究においてそれを有効活用している。	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【この基準の大学評価】

キャリアデザイン学部では本学の理念・目的を表明する大学憲章「自由を生き抜く実践知」に通底する建学の精神「自由と進歩」を踏まえて、「自己のキャリアを自らデザインすることのできる自律的／自立の人材」の養成を教育目標に掲げている。その方向性は明らかであり、また理念・目的は適切に設定されている。

学部の理念・目的は学則等に明示されており、また教職員、学生、社会に対して大学案内や学部パンフレット、履修の手引きの他、さまざまな企画やメディアを介し積極的に公表・周知がなされている。

2 内部質保証

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。

①質保証委員会は適切に活動していますか。	はい	いいえ
----------------------	----	-----

【2017年度質保証委員会の構成、開催日、議題等】 ※箇条書きで記入。

- ・自己点検・質保証委員会：学部の3領域をカバーするメンバーから成る委員長および3名の委員で構成
- ・会議開催
 - 第1回質保証委員会（2017年4月21日）：主な議題と活動予定：前学部長、前質保証委員長の助言により、学部予算の学生モニターは実施しないことで合意。後日教授会で提案し承認。
 - 第2回質保証委員会（2017年9月22日）大学予算の学生モニター調査テーマ案の検討。テーマ案として2年生ゼミ（兼任講師ゼミを含む）の選択、学習などについて。FD会議で報告、承認。
 - 第3回質保証委員会（2017年12月23日）大学予算の学生モニター調査のテーマの確認、開催日時、教室確保等の検討。および教育支援課担当者との連絡体制の確認。
 - 第4回質保証委員会（2018年1月28日）大学予算学生モニター調査の実施
 - 第5回質保証委員会（2018年2月6日）大学予算学生モニター調査の実施報告書案の検討
 - 第6回質保証委員会（2018年2月23日）2017年度質保証委員会の活動の振り返り及びFD会議において学生モニターの結果報告と改善提案を行う。併せて、2017年度の「内部質保証・自己点検チェックシート」および「自己点検・評価シート『現状の課題・今後の対応等』」の点検・評価内容について報告。

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

キャリアデザイン学部では、「発達・教育キャリア」「ビジネスキャリア」「ライフキャリア」の三領域をカバーする委員3名と委員長1名から成る自己点検・質保証委員会を設置している。2017年度は計6回の委員会を開催し、主として学生モニター調査を中心に内部質保証に努めている。学部独自の「内部質保証・自己点検チェックシート」を作成していることは特筆に値する。引き続きPDCAサイクルに資するよう客観的な視点で活動を行い、積極的かつ具体的な提言が望まれる。

3 教育課程・学習成果

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

【学位授与方針】

所定の単位の修得により、以下に示す水準に達した学生に対して「学士（キャリアデザイン）」を授与する。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

1. キャリアデザインが求められる社会的背景、およびキャリアデザインに関する基本的な知識やアプローチの方法について幅広く理解している。
2. 特定のアプローチについては、専門的知識を有し、それを活用できる。
3. キャリアデザインに関わる社会現象や政策・施策等について、自ら研究を深め、一定の成果を残すことができる。

①学部（学科）として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件）を明示した学位授与方針を設定していますか。

はい いいえ

3.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

【教育課程の編成・実施方針】

本学部では、学位授与方針を踏まえ、以下の通り教育課程を編成・実施する。

1. 教育課程

教養教育科目と専門教育科目から構成する。教養教育科目（市ヶ谷基礎（ILAC）科目）においては、幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する。専門教育科目は少人数演習型授業と講義科目、体験型授業によって構成し、系統的な履修を促す。

2. 初年次教育

教養教育科目を幅広く履修することに加え、アカデミックスキルの習得を目的としながら学部の専門教育科目への関心を高めるねらいをもつ「基礎ゼミ」を1年次春学期の必修科目として位置づけ、少人数演習型授業として実施する。また、1年次から専門教育科目のうち基幹科目の履修を促す。

3. 専門教育科目

（1）少人数演習型授業

「基礎ゼミ」の履修を前提に、調査研究法の基礎を習得する科目の履修につなげる。2年次秋学期から4年次にかけては、専門的な学びを深めることを目的とした演習（ゼミ）を設け、卒業論文の執筆を通じた研究成果の取りまとめを促す。

（2）講義科目

「基幹」科目の幅広い履修を踏まえて「発達・教育キャリア」「ビジネスキャリア」「ライフキャリア」の3領域のいずれかを選択し、「展開」科目において専門的な学びを深めるよう促す。これらと「関連」科目をあわせた系統的な履修を促す。

（3）体験型授業

企業・学校・コミュニティなどにおける他者との関わりを通じた体験的な学びとスキルの習得を目的とした体験型授業を必修科目に位置づけ、知識と体験の統合を促す。

①学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。

はい いいえ

②教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。

はい いいえ

【根拠資料】 ※冊子名称やホームページURL等。

- ・2018年度キャリアデザイン学部履修の手引き
- ・キャリアデザイン学部ホームページ <https://www.hosei.ac.jp/careerdesign/>

③教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。

S A B

(～400字程度まで) ※検証を行う組織（教授会や各種委員会等）や検証の時期等、検証プロセスを記入。

本学部は、完成年度後の2007年度から新教育課程に移行し、その後教学戦略委員会の議論を受けて2012年度から実施した新（々）教育課程は、2015年度に完成年度を迎えた。これらの改編効果をさらに向上させるため、2015年度末～2016年度初頭において教務委員会が、教育課程の適切性を検証しながら改革案を作成、それを受けて2016年度に発足した教学改革委員会で、実行可能性を勘案しつつ改革案を絞り込み、教授会での審議を経て2017年度入学生から改編したカリキュラムを適用し、調査法授業の拡充と1年次の入門科目の柔軟な履修を実現した。また、ILAC必修英語についてのクラス定員を2017年度に変更し、2018年度から従来の28人から24人へと少人数化し、英語教育の環境整備を進めた。

【2017年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

2017年度からの教育課程では、「キャリア研究調査法入門」（1年生秋学期）が新設された。「キャリア研究調査法入門」の授業内容の設定にあたっては、2016年の10月から12月にかけて、教務委員と「キャリア研究調査法」担当者によって、

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

社会調査のエッセンスを凝縮しつつ、キャリアデザイン学部の教育目標と接合するよう、授業内容を検討した。また、2017年度末の学部教授会において、履修状況、成績の分布状況を報告し、内容の適切性および教育目標の到達度を検証した。

また、「キャリア体験国際（台湾）」の体験型必修科目を2018年度から新設した。準備にあたって、現地大学生との協働学習およびインターンシップという目標を達成できるよう、国際交流委員会が中心となり、教務委員会、体験型主任とともにプログラムの具体化、現地協力企業の開拓、受け入れ先大学との協定締結等の準備を進めた。

さらに、ILAC 必修英語に関しては、2017年度に、クラス定員を24人とするよう ILAC 英語分科会／運営委員会に申し入れを行い、2018年度から24名定員が実現した。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・キャリアデザイン学部 2016 年度 教務委員会作成 20160518 付資料
- ・キャリアデザイン学部 2016 年度 教学改革委員会 第1～4回 資料
- ・2018年度キャリアデザイン学部講義概要（シラバス）「キャリア研究調査法入門」p.2
- ・2017年度 第12回教授会（2017年12月8日）資料13「調査法についての情報共有」及び議事録
- ・2018年度 第1回 FD ミーティング（2018年4月6日）資料10「国際交流委員会」及び議事録

3.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。

S A B

(～400字程度まで) ※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。

教育課程の編成・実施方針に基づき、学生の能力育成という観点から、各科目は適切な教育内容を提供できるように配置されている。とりわけ、専門教育において基幹的な位置を占める科目については、原則として専任教員が担当する体制をとっている。「キャリアデザイン学入門」「3つの領域別の必修の入門科目」をはじめとする基幹科目において基礎的な理解を形成し、2年次以降の領域ごとの展開科目で専門性を深めるとともに、2年次秋学期からの「演習」において問題意識を掘り下げ、卒業論文の執筆、「キャリアデザイン学総合演習」で総括するという積み上げ型のカリキュラムとなっている。

また、本学部の特徴である選択必修科目の「展開体験型科目」では、高校等に対するキャリア支援や企業等での実習による体験を通じて、実社会におけるキャリアデザインへの理解を深めている。

【根拠資料】 ※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等

- ・2018年度キャリアデザイン学部履修の手引き 学部 - (1) ～ (35)
- ・キャリアデザイン学部ホームページ「カリキュラム」
<http://www.hosei.ac.jp/careerdesign/gakka/curriculum/index.html>

②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。

S A B

(～600字程度まで) ※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等）含む）への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。

本学部では、教養教育と専門教育を段階的に位置づけるのではなく、相互が相乗的な効果をあげることができるように、1年次から市ヶ谷基礎科目だけではなく、専門科目を幅広く設置している。

専門科目については、1年次から履修できる「基幹科目」、2年次から履修できる「展開科目」「関連科目」、2年次秋学期から履修できる「演習」、4年次に履修できる「卒業論文」「キャリアデザイン学総合演習」を系統的に配置し、カリキュラムの順次性に配慮している。また、専門科目は、「発達・教育キャリア」「ビジネスキャリア」「ライフキャリア」の3領域の科目群、および体験型学習科目に分かれ、共通→分化→統合という学習の履歴を追うことができるように設計されており、カリキュラムの体系性が保たれている。

2012年度から実施した新カリキュラムでは、学生が自身の専門を従来よりも意識して体系的に履修することを可能にし、また2017年度より、調査法の拡充（キャリア研究調査法入門の新設）、領域別の入門科目の柔軟な履修機会の確保という観点から一部改定を行っている。

【2017年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

- ・「キャリア研究調査法入門」を新設し、方法論の習得に関して順次性・階梯性を改善した。
- ・本学部の学生が、実際に、順次性・階梯性・体系性のある履修をするためには、履修単位上限の拘束を緩和することが肝要であることから、2017年度より、教職・資格課程科目の一部を「関連科目」から除くことで、これを実施できるよう改編した。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>・2017年度はカリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーを完成させ、ディプロマポリシーに照らして各科目の配置を示し、その順次性・体系的について確認するとともに、学生に対して科目配置の考え方を明示した。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2018年度キャリアデザイン学部履修の手引き 学部 - (1) ~ (35) ・2018年度キャリアデザイン学部講義概要 (シラバス) 「キャリア研究調査法入門」 p.2 ・キャリアデザイン学部ホームページ「カリキュラム」 	
<p>③幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。</p>	<p>S <input checked="" type="checkbox"/> A B</p>
<p>(~400字程度まで) ※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。</p> <p>市ヶ谷基礎科目と専門科目をバランスよく履修することにより、専門分野に特化した人材としてだけでなく、幅広い教養と総合的な判断力、豊かな人間性を備えた人材を育てることができるような教育課程の編成に留意している。また選択した個別領域を深く学ぶとともに、学生が領域横断的な学びを付加し幅広い専門性を修得できるようにしている。さらに、豊かな人間性涵養のためには、大学の学びの中で多様な体験をすることが重要であることから、体験型授業を必修選択とし、体験を通じて自己理解、社会への理解を深め、多様な観点から事象を把握できるような能力伸長を目指している。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>2018年度キャリアデザイン学部履修の手引き 学部 - (1) ~ (35)</p>	
<p>④初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> S A B</p>
<p>(~400字程度まで) ※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。</p> <p>初年次教育として、市ヶ谷基礎科目の「基礎ゼミ」「法政学への招待」「情報処理演習」、専門科目の「キャリアデザイン学入門」「3領域別のキャリアデザイン学入門」「キャリア研究調査法入門」を配置し、専門への導入として位置付けている。</p> <p>高大接続への配慮については、市ヶ谷基礎科目0群の「基礎ゼミ」において、全クラスにおける標準シラバスと共通の評価システムの適用と共通テキストの活用により、基本的なアカデミックスキルズを修得することと並行して、高校生と大学生の学習・生活における違い、引用と剽窃の違い、電子メールの書き方・送り方、等について原則として専任教員が丁寧に指導している。</p> <p>また、付属校及び指定校推薦による入学予定者に対しては、高校3年の3学期対応として課題を課しており、入学後に課題をフォローすることにより、高校から大学の学びへの円滑な移行を促している。</p> <p>【2017年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>今後のグローバル化を踏まえると、大学で語学力を高めるのは必須と考えるが、学生が必ずしも語学の学習に積極的ではないことから、執行部と学部の英語担当教員がILAC英語分科会執行部と魅力的な英語カリキュラムの在り方や、学生に英語の重要性を理解させることの重要性について協議を行い、その結果を教授会で共有し、様々な機会をとらえて学生に語学の重要性を訴求することを確認した。また、2018年度入学生に対するガイダンスでは、英語のカリキュラムの説明を充実させ、語学学習の重要性を説明した。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2018年度キャリアデザイン学部履修の手引き 学部 (8) ~ (12) ・2018年度 第1回 FDミーティング (2018年4月6日) 資料3「基礎ゼミ」及び議事録 ・2017年度 第13回教授会 (2017年12月22日) 資料18「付属校・指定校等第三学期課題」及び議事録 ・2017年度 第14回教授会 (2018年1月26日) 資料16「CD学部英語関連科目の現状」及び議事録 ・新入生 英語ガイダンス (2018年4月5日) 	
<p>⑤学生の国際性を涵養するための教育内容は適切に提供されていますか。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> S A B</p>
<p>(~400字程度まで) ※学生に提供されている国際性を涵養するための教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>学生の国際性を涵養するために、知識・体験・語学力の向上を促進する科目を置いている。第一に、展開科目において、3つの領域ごとに「外書講読」を配置するほか、現代の国際関係に関する理論、歴史、時事、地理等の知識を学ぶ「国際関係論」「国際地域研究」「アジア社会論」を置いている。第二に、国境を越えた体験学習の機会として、「キャリア体験学習 (国際)」でベトナム、台湾、「SA」ではオーストラリア、ニュージーランドの大学と提携したプログラムを提供している。第三に、英語力の強化を目的に、2014年度から英語強化プログラム (ERP) のコースを実施している。また、専門演習の中には、英語使用を義務づけて実施しているクラスもある。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

学生の多様性の確保という観点から、2015年度に留学生定員10名の枠を設定、2016年度には従来のバカロレア入試や日本人学校指定校入試に加え、グローバル体験推薦入試を導入、2017年度からは海外の指定校（韓国6校）入試を導入している。

【2017年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

ILAC必修英語に関しては、2017年度に、クラス定員を24人とするようILAC英語分科会/運営委員会に申し入れを行い、2018年度から24名定員が実現した。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2018年度キャリアデザイン学部講義概要（シラバス）
- ・2018年度キャリアデザイン学部履修の手引き「体験型選択必修科目/キャリア体験学習（国際）」 学部 - (32) (33)
- ・2018年度キャリアデザイン学部履修の手引き「スタディ・アブロード（SA）プログラムについて」 学部 - (125) (126)
- ・2019入試ガイド
- ・キャリアデザイン学部パンフレット2019

⑥学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。

S A B

(～400字程度まで) ※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

市ヶ谷基礎科目に「就業基礎力養成Ⅰ・Ⅱ」を配置するとともに、専門科目では、「キャリアデザイン学入門」をはじめとして、学部の理念に基づきすべての専門科目が、キャリア教育としての効果を持つ内容となっている。また、学部の就職委員会は、履修ガイダンスにおいて学部での学びと将来の就業との関連性について説明するなど、「就活支援」という狭い視点にとらわれない形でのキャリア支援の観点から活動を展開している。

【2017年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

就職委員会を中心に、キャリアアドバイザーの支援を受け、2017年10月～2018年3月にかけて、就職支援プログラム「就職カフェ」を開催した。就職活動の意義、業界研究の方法、自己PR作成といった就職活動を目前に控えた学生を対象とする内容だけでなく、社会人と接する機会やインターンシップの利用方法など、社会的自立および職業的自立に向けた意識形成を図った。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2018年度キャリアデザイン学部履修の手引き 学部- (2) ～ (16)、(29) - (35)
- ・2018年度 第1回FDミーティング(2018年4月6日)資料11「就職委員会」及び議事録
- ・2018年度 第1回FDミーティング(2018年4月6日)資料13「キャリアアドバイザーの活動について」及び議事録

3.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

①学生の履修指導を適切に行っていますか。

S A B

【履修指導の体制および方法】 ※簡条書きで記入。

<1年次基礎ゼミ>

- ・授業内で、領域の選択をはじめ卒業までを見据えた履修指導を実施している。

<教務委員会関連事項>

- ・年度の開始時に、教務委員会による学年別履修ガイダンスを開催している。
- ・2年生の5月に、教務委員会によるゼミ履修ガイダンスを開催している（ゼミ所属は2年生秋学期から）。その際、就職委員会からの説明も行うことにより、働くことを見据えてゼミの重要性について考えさせるようにしている。
- ・2年生に対し、ゼミ担当教員がゼミ関連科目を示すなどして、具体的な科目履修を推奨している。

<キャリアアドバイザー運営委員会関連事項>

- ・1年生に対し、先輩学生をピアアドバイザーとする履修相談会を開催。
- ・全学年の学生に対して、随時、キャリアアドバイザーによる履修相談を行う体制が整備している。

<体験型必修科目関連事項>

- ・2年生に対し、体験型必修科目の履修ガイダンスを実施
- ・履修ガイダンス配布資料の形式を整え、共通フォーマットによって各体験の内容を比較しやすくなった。

【2017年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

- ・年度初めに体験型主任主催の体験型履修ガイダンスを開催した。その際、体験型各クラスの説明フォーマットを統一し、各クラスの選考条件やプロセスの一覧表を作成し配布した。また、体験型授業の報告書や今年度の実施内容に関する資料等を配布し、情報提供を充実させた。
- ・ゼミ履修のゼミ別応募状況を手引きで明示し、学生のゼミ希望の参考に資することとした。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>・2018年度初めの履修説明会において、英語学習の重要性について、担当教員から説明を行った。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2018年度 ゼミ履修の手引き ・2018年度 体験型選択必修科目 ガイダンス資料 ・2018年度 新入生 英語ガイダンス ・2018年度 新二年生 英語ガイダンス ・2017年度キャリアデザイン学部内部質保証・自己点検チェックシート ・2018年度キャリアデザイン学部履修の手引き「キャリアアドバイザーより新入生のみなさんへ」学部- (36) ~ (41) ・キャリアサポート事前指導/キャリアサポート実習成果報告書(2017年度) ・2017年度キャリア体験学習報告書 ・2017年度・キャリア体験学習【国際】ベトナム報告書 ・地域学習支援報告書 ・キャリアデザイン学部ホームページ https://www.hosei.ac.jp/careerdesign/ : カリキュラムツリー、カリキュラムマップ 	
②学生の学習指導を適切に行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> S A B
<p>(~400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>学習指導は、ガイダンスや個別相談、ゼミや演習等の授業の中で適切な指導が行われるように配慮している。とりわけ1年春学期の「基礎ゼミ」は、基礎能力の育成をめざして、原則として専任教員による少人数の指導体制が組まれている。2016年度からは、全クラスの基本的なスケジュール、評価方法を基礎ゼミ代表教員が作成して授業運営の均質化を図っている。具体的には、クラスごとにある程度柔軟性を持たせるという判断から、①準拠テキストの共通化、②課題内容の統一、③口頭発表の機会の回数設定、④グループディスカッションなど学生参加型の学習形式を主として進めること、⑤成績の考え方、の5項目を共通の運用条件として、その他の部分は、サブ教材とする文献の選択を含め担当教員の自由裁量とした。2017年度はそれに加え、成績評価基準、出欠席基準の共通化を図った。また、2018年度初めには、「定期試験等における不正行為の処分基準」の内容の徹底を図るため、少人数の演習のクラスを中心に資料を配布して説明を行った。</p> <p>【2017年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>英語スキルの重要性に鑑み、2018年度の新入生及び2年生に対する履修ガイダンスにおいて、英語カリキュラムの体系の説明、英語学習の重要性について、担当教員から丁寧な説明を行った。また、英語に関する授業の履修状況を教授会で共有し、様々な機会をとらえて各教員から英語の学びの重要性を指摘することについて確認を行った。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2018年度キャリアデザイン学部履修の手引き「キャリアアドバイザーより新入生のみなさんへ」学部- (36) ~ (41) ・2018年度キャリアデザイン学部講義概要(シラバス)「基礎科目(0群)基礎ゼミ」(p.6) ・2017年度キャリアデザイン学部 内部質保証・自己点検チェックシート ・2018年度 第1回 FDミーティング(2018年4月6日) 資料3「基礎ゼミ」及び議事録 ・2017年度 第14回教授会(2018年1月26日) 資料16「CD学部英語関連科目の現状」及び議事録 ・2018年度 新入生 英語ガイダンス ・2018年度 新二年生英語ガイダンス 	
③学生の学習時間(予習・復習)を確保するための方策を行なっていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(~400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>学生が授業時間以外にも学習時間(予習・復習)を確保するために、シラバスにおいて自主学習の内容を提示・指示するとともに、授業時において具体的な指導を行うように努めている。特に、演習(ゼミ)は教員の裁量範囲ではあるが、時間外学習が不可欠な課題を課すことが一般的であり、これにより時間外学習を習慣づける雰囲気を作っている。提出された課題に対して教員がフィードバックをすることを繰り返すことで、質の高い学習になるよう努めるようにしている。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアデザイン学部改善計画2015中間報告書(p.13) ・2018年度キャリアデザイン学部講義概要(シラバス) 	
④1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p>【履修登録単位数の上限設定】 ※1年間又は学期ごと、学年ごと等に設定された履修単位数の上限を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ILAC科目と専門科目については、合計で、半期30単位・年間48単位を上限としている。 <p>【上限を超えて履修登録する場合の例外措置】 ※履修登録単位数の上限を超えて履修できる場合、制度の概要を記入。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<p>・教職資格課程表あるいは資格課程開設科目表において科目名に■が付いている科目は卒業所要単位には含めず、これらを履修する場合は、ILAC 科目及び専門科目と合わせて半期 30 単位・年間 60 単位を上限として履修登録ができる。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・2018 年度キャリアデザイン学部履修の手引き 学部一(7)</p>	
⑤教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【具体的な科目名および授業形態・内容等】 ※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。</p> <p>・「基礎ゼミ」、「情報処理演習」、「キャリア研究調査法」（質的調査）（量的調査）では、聞いて覚えるだけでなく、実際に経験して理解することが肝要であるため、グループワークやプレゼンテーション、ディスカッション、レポート作成の機会を必ずつくることを学部の了解事項とし、1 クラスの人数を制限することによって教育目的を達成するようにしている。</p> <p>・「キャリア体験学習」（国内）（国際）、「キャリアサポート実習」「地域学習支援」「メディアリテラシー実習」では、キャリアデザインに関する基本的な知識やアプローチの方法について学び、かつ自ら研究を深める力を養うために、学外の企業、NPO、地域学習団体、高校生との協働学習を義務付けている。</p> <p>・2016 年度より、シラバスに学部独自項目【授業中に求められる学習活動について】を設けた。「より伝統的・個人的活動」から「より能動的・協働的活動」の 9 タイプの学習活動について、A～I のアルファベットで記入するものである。学生にとって授業形態が把握しやすくなることに加え、教員間で情報を共有し、より効果的な教育方法を探しやすくすることを狙っている。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・2018 年度キャリアデザイン学部講義概要（シラバス） p. ii、および各科目の紹介</p> <p>・2018 年度 体験型選択必修科目 ガイダンス資料</p>	
⑥それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1 授業あたりの学生数が配慮されていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> S A B
<p>（～400 字程度まで） ※どのような配慮が行われているかを記入。</p> <p>少人数規模であることがとりわけ重要なのは、語学（ILAC 必修英語）、体験型授業、演習（ゼミ）である。</p> <p>ILAC 必修英語については、28 人までを許容する運用を改善するために、2017 年度に 24 人と定員するよう申し入れを行い、2018 年度から 24 人定員が実現した。</p> <p>体験型授業については、内容や授業補助者の有無に応じて上限人数を 10～50 人程度に設定している。調査法（量的・質的）も同様に、受講生を 20 名程度として多い場合には選考を行っている。</p> <p>2 年秋学期開始の演習（ゼミ）については、例年、上限を 14～16 人程度に設定し、1～3 次募集を実施して、人数の平準化を図っている。</p> <p>【2017 年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>語学（ILAC 必修英語）の定員を従来の「28 人」から「24 人」に減らすことにより、語学教育の効果的な展開を図った。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・2017 年度 第 4 回教授会（2017 年 6 月 2 日） 資料 12「教務委員会資料」及び議事録</p> <p>・2018 年度 体験型選択必修科目 ガイダンス資料</p> <p>・2018 年度 ゼミ履修の手引き</p>	
⑦シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
<p>【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。</p> <p>・教務委員会によるシラバスの形式と内容のチェックを、毎年、執筆（依頼）開始の 12 月から 2 月にかけて行い、不適切な場合には書き直しを要請することにより、内容の適切性を確保している。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・2017 年度キャリアデザイン学部内部質保証・自己点検チェックシート</p> <p>・2017 年度 第 11 回教授会（2017 年 11 月 24 日） 議事録</p>	
⑧授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
<p>【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。</p> <p>・学生による授業改善アンケートや、授業相互参観などで組織的に実施している。執行部が授業アンケートに目を通すことや、相互授業参観を通じたディスカッションや報告書の作成により教員間で情報を共有している。</p> <p>・学部の中でも基幹的な科目に関しては、FD ミーティングにおいて授業担当者が内容や課題を報告し、議論を行っている。</p>	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>・シラバスが学生との一種の「契約」とであるという点については、学部 FD ミーティング等を通じて周知徹底を図ってきている。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2017 年度キャリアデザイン学部内部質保証・自己点検チェックシート ・2017 年度 教員による授業相互参観実施状況報告書 キャリアデザイン学部提出資料 ・2018 年度 第 1 回 FD ミーティング (2018 年 4 月 6 日) カリキュラム関連資料及び議事録 	
3.5 成績評価と単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【確認体制および方法】 ※簡条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進級に関する規定、早期卒業に関する規程を定めている。 ・セメスター毎の学部平均の GPA は教授会場で報告・検討され、講義科目における A+の割合は、学部における申し合わせどおり、15%以内におさめるように確認している。 ・セメスター毎の学部平均の GPA は教授会場で報告・検討されている。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進級に関する規程 ・早期卒業に関する規程 ・2017 年度 第 5 回教授会 (2017 年 6 月 16 日) 資料 3 及び議事録 	
②他大学等における既修得単位の認定を適切な学部 (学科) 内基準を設けて実施していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
<p>(~400 字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>転・編入者および社会人特別入試による入学者については、他大学等における既修得単位の認定を行っている。認定にあたっては、学部の専門科目との対応を検討し、執行部の提案を教授会で審議・決定している。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2018 年度 第 2 回教授会 (2018 年 4 月 20 日) 議事録 	
③厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(~400 字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>FD 推進センターによる GPA 平均の情報開示を行い、個々の教員 (兼任含む) に自覚を促している。</p> <p>2013 年度まで学部主催科目の GPA 平均が他学部に比べて著しく高くなっていた (平均 2.8)。この一因は、一定規模 (50 人) 以上の授業で、A+ (15%以上) の成績評価を出している授業科目が少なくないことにあり、該当する専任・兼任教員に A+を 15%以内に是正することを要請した。その結果、2014 年度以降、A+の割合が 15%を超える科目が減り適正になった。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2017 年度 第 5 回教授会 (2017 年 6 月 16 日) 資料 3 及び議事録 	
④学生の就職・進学状況を学部 (学科) 単位で把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
<p>【データの把握主体・把握方法、データの種類の等】 ※簡条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職状況については、キャリアセンターから提供を受けた卒業生の進路データをもとに学部として実態を把握し、就職委員会による分析を教授会全体で共有している。 ・就職支援についてはキャリアアドバイザーとも連携しており、進路データは適切な就職支援を行うために、キャリアアドバイザーによる学生の進路相談にも活用している。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアデザイン学部パンフレット 2019 ・2018 年度 第 1 回 FD ミーティング (2018 年 4 月 6 日) 資料 11 「就職委員会」及び議事録 ・2018 年度 第 1 回 FD ミーティング (2018 年 4 月 6 日) 資料 13 「キャリアアドバイザーの活動について」及び議事録 	
3.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①成績分布、進級などの状況を学部 (学科) 単位で把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
<p>【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】 ※簡条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績分布、進級については、学部として実態を把握し、留年者、卒業留保者に対しては、キャリアアドバイザーによる面談を実施している。 	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

<p>・低単位取得者に対する面談も実施している。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・キャリアデザイン学部ホームページ「キャリアアドバイザー制度」 http://www.hosei.ac.jp/careerdesign/shokai/adviser.html</p> <p>・抽出資料及び本人宛通知（学務）</p>	
<p>②分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。</p>	<p><input type="checkbox"/> S A B</p>
<p>(～400字程度まで) ※取り組みの概要を記入。</p> <p>教務委員会の主導で学部の独自性を反映した教育目標を検討し、それらに対する各科目の位置づけ、到達目標を明確に示すために、教育目標や到達目標の妥当性について教授会で議論して共有した。</p> <p>【2017年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>・学部の独自性を反映した教育目標を6項目設定し、カリキュラムツリーおよびカリキュラムマップを作成した。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・2017年度 第13回教授会（2017年12月22日） 資料15及び議事録</p> <p>・2017年度 第14回教授会（2018年1月16日） 当日配布資料 及び議事録</p> <p>・2017年度 第15回教授会（2018年2月23日） 当日配布資料 及び議事録</p> <p>・キャリアデザイン学部ホームページ「カリキュラム」 http://www.hosei.ac.jp/careerdesign/gakka/curriculum/index.html</p>	
<p>③具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。</p>	<p>S <input checked="" type="checkbox"/> A B</p>
<p>(～400字程度まで) ※取り組みの概要を記入（取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用等）。</p> <p>体験型科目（一部）においては、本学部が学生のキャリアについての意識や行動を測定するために開発した尺度である「Career Action Vision Test (CAVT)」を活用した測定・評価を行い、体験型学習の成果の検証を行っている。また、SAプログラムに関しては、プログラム実施前後の語学テスト（TOEFL-ITP (level 2)）の成績を比較している。</p> <p>SA帰国直後の報告会としては、学生に現地での学びや生活についての英語プレゼンを実施するとともに、参加者へのヒアリング等を行い、語学力だけでなく、授業態度やネットワーク形成への関心などへの効果についても把握している。</p> <p>専門演習（卒業論文等）の研究発表会は、全てのゼミ生（2・3・4年生）が参加する学部全体の発表会である。第12回発表会は、2018年1月28日（日）に開催され、当日は9会場に分かれて各会場4～6本ずつ、計50の研究発表が行われた。全発表終了後には当該教室の複数の教員が講評を述べるというかたちで、評価を行なった。</p> <p>また、FD推進センターが実施する学生・卒業生・父母等に対するアンケート調査結果は教授会で報告し、共有しながら意見交換を行っている。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・Career Action Vision Test (CAVT)</p> <p>・第12回学生研究発表会報告要旨集</p> <p>・2017年度キャリアデザイン学部内部質保証・自己点検チェックシート</p> <p>・キャリアデザイン学部パンフレット2019</p> <p>・2017年度 第4回教授会（2017年6月2日） 議事録</p> <p>・2017年度 第5回教授会（2017年6月16日） 資料3及び議事録</p> <p>・2017年度 第12回教授会（2017年12月8日） 資料2-4及び議事録</p> <p>・2017年度 第14回教授会（2018年1月26日） 資料2及び議事録</p> <p>・2017年度 第16回教授会（2018年3月16日） 資料2及び議事録</p>	
<p>④学習成果を可視化していますか。</p>	<p><input type="checkbox"/> S A B</p>
<p>【学習成果可視化の取り組み】 ※取り組みを箇条書きで記入（取り組み例：専門演習における論文集や報告書の作成、統一テストの実施、学生ポートフォリオ等）。</p> <p>・専門演習（卒業論文等）の研究発表会では、9会場で50発表という多くのエントリーがあった。当日、各会場では1発表あたり発表20分＋質疑応答10分の時間が割かれ、同じ教室の他ゼミ生が司会とコメンテーターを務めた。発表会は公開しており、要旨集録の作成・配布も行った。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> ・体験型科目（キャリアサポート、インターンシップ、ベトナム、地域学習支援）の成果報告書作成・配布、webでの公開を行った。 ・「地域学習支援Ⅱ」の各授業について、学生の体験内容等をまとめ、大学イベントスペースにおけるポスターセッションを実施した。 ・学生活動サポート奨励金（学生サポート助成）制度は、学生の自主的活動の促進を目的に設けられた制度である。2017年度には13団体が奨励金助成を受け、独自性のある活動を展開した。 	
<p>【2017年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域学習支援Ⅱ」の大学イベントスペースにおけるポスターセッション これまでキャリアデザイン学部だけに公開されてきた成果報告会を、大学イベントスペースを借りて1週間ポスターを展示する形式に変更した。これにより、キャリアデザイン学部だけでなく、他学部の教職員や学生、大学来訪者にも学習成果を公開することになり、学習成果に対して、より幅広い意見をもらうことができるようになった。実際、立ち合い質問の場で、立ち寄った企業の方から褒められた学生もおり、全般的に今後の学習活動に対する意欲が高まったといえる。 ・キャリアデザイン学部連続シンポジウム第18回「インターンの活かし方—大学と企業が、今、できること」 本学部の特徴である体験型授業の中でも「インターンシップ」を取り上げ、本学部の授業を紹介し、その上で、有識者、実務家とともに効果的なインターンシップのあり方、とりわけ単位認定するインターンシップについて議論を行い、学部教育の効果検討につなげることができた。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2017年度キャリアデザイン学部内部質保証・自己点検チェックシート ・第12回学生研究発表会報告要旨集 ・キャリアサポート事前指導／キャリアサポート実習成果報告書(2017年度) ・2017年度キャリア体験学習報告書 ・2017年度・キャリア体験学習【国際】ベトナム報告書 ・キャリアデザイン学部連続シンポジウム第18回の記録、『生涯学習とキャリアデザイン』Vol.16-No.1(2018年夏発行予定) ・学生サポート助成2017年度実績報告、『生涯学習とキャリアデザイン』Vol.16-No.1(2018年夏発行予定) 	
<p>3.7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みも行っているか。</p>	
<p>①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程およびその内容、方法の改善に向けた取り組みを行っていますか。</p>	<p>S A B</p>
<p>(～400字程度まで) ※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。</p> <p>学部設置以来、抜本的なカリキュラム改定を2回実施しており、新カリキュラムの検討の際には、従来の教育課程のもとでの教育成果について、時間をかけた検証・検討を行っている。2012年度から開始した新カリキュラムが2015年度に完成年度を迎えたことから、2016年度には教学改革委員会を発足させて、カリキュラムの一部を見直し、2017年度からのカリキュラム改訂につなげている。また、マイナーなカリキュラムの改編は必要に応じて適時実施し、教育課程の内容等の改善・向上を図ってきている。検証にあたっては、教務委員会とともに質保証委員会が、執行部との連絡を密にしつつ検証を行う体制を整えている。</p> <p>また、FDミーティングにおいて、基礎ゼミ、入門授業、調査法、体験型授業などの学部の基幹的な科目に関しては、その内容について担当教員から報告し、意見交換を行い、授業の改善につなげている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアデザイン学部改善計画報告書(2016年3月) ・キャリアデザイン学部2016年度教務委員会作成20160518付資料 ・2018年度第1回FDミーティング(2018年4月6日)カリキュラム関連資料及び議事録 	
<p>②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。</p>	<p>S A B</p>
<p>【利用方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FDミーティングの場で、学部の平均スコアの開示、学生による自由記述の紹介を行い、それを材料にして意見交換を実施するなど、有効活用を図っている。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2016年度キャリアデザイン学部内部質保証・自己点検チェックシート ・2017年度第14回教授会(2018年1月26日)資料2及び議事録 	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
<p>2016年度、教務委員と教学改革委員を中心にカリキュラム改編案（マイナー改編）を議論し、2017年度より実施している。主な改編事項は、「キャリア研究調査法入門」の新設と、3領域別の入門科目の柔軟な履修である。これにより、カリキュラムの順次性・階梯性を改善した。また、本学部の授業は授業内容や方法が多様であり、履修する学生にとって授業の特徴を理解しにくいという面があり、2017年度には、教務委員会を中心にカリキュラムツリーとカリキュラムマップを整備し、従来から実施してきた「100文字シラバス」と併せて、カリキュラムの体系を明確化した。また、シラバスにおいて、授業に求められる学習活動を記号で示すなどの工夫により、授業内容をより分かりやすくする工夫をしている。</p> <p>特に、本学部の特徴である体験型科目については、学生が自分の関心や興味等に合った内容を選択できるよう、ガイダンスを充実させるとともに、科目群ごとの報告書を作成するなどの工夫を行っている。</p>	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
<p>体験型科目については、多様な内容、形態があり、相互に情報共有・連携を図ることが重要である。その際、体験型授業を支援しているキャリアアドバイザー制度の現状把握と効果的な運用方法の検討が必要である。</p>	

【この基準の大学評価】

① 方針の設定に関すること (3.1～3.2)

キャリアデザイン学部では学位授与方針を設定し、学位授与に求める学習成果や諸要件が明示されている。教育課程の編成・実施方針は、学生に期待する学習成果の達成を可能としており、適切に設定されている。教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針は『2018年度キャリアデザイン学部履修の手引』や大学HPで周知されている。

②教育課程・教育内容に関すること (3.3)

キャリアデザイン学部の教育課程や教育内容は、教育課程の編成・実施方針に基づき適切に提供されており、とりわけ専門教育においては基幹的な位置を占める科目を原則として専任教員が担当することにより高度な内容が担保されている。カリキュラムの順次性や体系性は適切であり、とくに2017年度のカリキュラム一部改編や、カリキュラム・マップとツリーの完成により学位授与方針に照らした科目配置の順次性・体系性が確認され、科目配置の意図が学生に明示されたことは評価できる。

また教養教育を担うILAC科目と専門科目はバランスよく配置され、本学部に特徴的な体験型授業などにより、教養・判断力・人間性に於いて豊かで優れた人材育成が目指されている。

初年次教育・高大接続を重視する姿勢から、「基礎ゼミ」などの開講や付属校および指定校推薦入試による入学予定者への課題のフォローアップなど、さまざまな工夫がなされている。

学生の国際性を涵養する点については、一般的な語学力の向上を基盤としてさまざまな知識の修得や体験の機会が提供されている。英語力を高める科目が複数配置されている他、「キャリア体験学習（国際）」やオーストラリアへのSAプログラムなどが実施され、留学生を対象とする入試の多様化が図られている。ILAC必修英語クラスの定員が24名となったことで教育環境がさらに整えられたといえよう。

キャリア教育は学部の特質に鑑みて十二分に提供され、学部に設置されている就職委員会の活動（就職支援プログラム「就職カフェ」開催等）は特筆に値する。

③教育方法に関すること (3.4)

キャリアデザイン学部では教務委員会、就職委員会、ゼミ担当教員、キャリアアドバイザー運営委員会により、履修指導の機会が十分に設けられ、入学から卒業までのきめ細かな履修指導が実現されている。

学習指導は、基礎ゼミや種々のガイダンスにおいて適切に行われ、今年度はとくに英語学習の重要性について丁寧に説

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

明がなされている。学生が自らの興味・関心に応じた履修が可能となるよう科目群ごとの報告書も作成され、工夫が見られる。

授業時間以外の学習時間（予習・復習）の確保については演習（ゼミ）を除き実質的にはシラバスへの明示や授業時の指示にとどまっておき、今後とも実態の把握・分析に努め、有効かつ実質的な対応が求められる。学期毎、年度ごとの履修登録単位数の上限は明確に設定されており、例外措置も適切である。

学部から体験型の授業形態が多く設けられ、またグループワークやプレゼンテーション、ディスカッションの機会を必ず設けることを学部の了解事項とするなど、組織的な取り組みがきわめて積極的である。またシラバスに学部独自項目「授業中に求められる学習活動について」の欄を設け、記号を導入して学生に明示しているのは優れた試みであり、他学部への波及が期待される。

1 授業あたりの学生数は授業形態に則して配慮されている。たとえば2018年度からはILAC必修英語のクラス定員を28人から24人とし、語学教育の効果的な展開が図られた。シラバスの形式と内容は教務委員会がチェックを行い、必要に応じて書き直しが要請され、内容の適切性が確保されている。シラバスと授業内容の照合は一部科目について授業相互参観やFDミーティングを通して行われ、その結果は教員間で共有されている。網羅的な検証は難しいが、引き続き意識向上とともに積極的な方策が望まれる。

④学習成果・教育改善に関すること（3.5～3.7）

キャリアデザイン学部では、 Semester毎の学部平均GPAが教授会で報告・検討され、学部申し合わせ（講義科目A+の割合15%以内）の遵守が確認されている。一方、個々の授業における成績評価や単位認定の適切性は、成績調査依頼制度を導入するなど、より実質的な方策が望ましい。

転・編入者および社会人特別入試による入学者の、他大学等における既修得単位の認定基準は設けられていないが、執行部が認定の提案を行い、教授会が審議・決定を行っている。

就職状況については、キャリアセンターから提供された卒業生の進路データを就職委員会が分析し、その結果を教授会で共有して、就職支援に適切に活用している。

厳格な成績評価を促すため、GPA平均の情報開示を行うことで学部としての状況を把握し、必要に応じて実質的な対応が取られている点は、評価ができる。また学部は成績分布や進級について把握し、留年者や卒業保留者や低単位取得者に適宜面談を行っている。

学習成果の把握・評価については、学部が開発した「Career Action Vision Test」や、SAプログラム前後の語学テスト成績が活用されている他、専門演習の研究発表会が活発に展開されている。同発表会は学習成果の可視化にも有効である。他にも体験型科目の成果報告書の作成・配布・webでの公開や、「地域学習支援II」成果報告会のポスターセッション開催など、本学部の学習成果は積極的に可視化され、高く評価できる。

学習成果を定期的に検証し、教育課程・内容・方法を改善させる取り組みは同学部において適切かつ積極的に行われている。学生による授業改善アンケートは、FDミーティングに於いて平均スコアの開示や自由記述の紹介があり、有効活用が図られている。

4 学生の受け入れ

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

4.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

【学生の受け入れ方針】

本学部の教育目標を理解した者であって、下記の資質・能力を備えた学生を受け入れる。

- ・高校までに履修する科目について、入学時に十分な基礎的知識を身につけている
- ・現実の社会の在り方とその中での人々のキャリアに関心をもっており、学問的に考察を深める意欲をもっている
- ・多様な他者の価値観を尊重したうえで、多様な人々と主体的に関わる意欲をもっている

多様な学生が関わりあう中で学びあうことを重視する観点から、下記の通り、様々な入試経路を通じて多様な学生を受け入れる。

- ・一般入試（A方式、T日程および大学入試センター試験利用入試）：

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

十分な基礎的知識にもとづく思考力・判断力・表現力を備えている

・推薦入試（指定校推薦、付属校推薦、スポーツに優れた者の特別推薦入試）：

十分な基礎的知識をもち、本学部における学びへの高い意欲をもっている

・特別入試（キャリア体験特別入試（自己推薦）、グローバル体験公募推薦入試、商業学科対象公募推薦入試、国際バカロレア利用自己推薦入試）：

十分な基礎的知識をもつとともに、多様な経験を積んでおり、自らの関心や学びの展望についての的確に表現することができる

①求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設定していますか。

はい いいえ

4.2 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

①定員の超過・未充足に対し適切に対応していますか。

はい いいえ

（～200字程度まで）※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。

2016年度入学者数が定員を大幅に超過したことに伴い、2017年度は2年次の量的調査法、質的調査法の増コマを行った。また、2年次秋学期以降4年次までの演習では、専任教員のみが担当して受け入れ人数を増やすことは指導の質の低下につながる事が懸念されたことから、これを回避するため、兼任講師7名によるゼミを2017年度秋学期から新たに開講して対応した。なお、2017年度、2018年度の一般入試の合格者数は適正水準となり、引き続きこれを維持するよう努めることとする。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・2017年度 ゼミ募集の手引き

定員充足率（2013～2017年度）

（各年度5月1日現在）

種別\年度	2013	2014	2015	2016	2017	5年平均
入学定員	294名	294名	294名	294名	294名	
入学者数	301名	321名	287名	421名	311名	
入学定員充足率	1.02	1.09	0.98	1.43	1.06	1.12
収容定員	1,134名	1,148名	1,162名	1,176名	1,176名	
在籍学生数	1,192名	1,243名	1,261名	1,400名	1,425名	
収容定員充足率	1.05	1.08	1.09	1.19	1.21	1.12

※1 定員充足率における大学基準協会提言指針

【対象】

①学部・学科における過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均

②学部・学科における収容定員に対する在籍学生数比率

【定員超過の場合】※医学・歯学分野は省略

提言	努力課題	改善勧告
実験・実習を伴う分野 (心理学、社会福祉に関する分野を含む)	1.20以上	1.25以上
上記以外の分野	1.25以上	1.30以上

【定員未充足の場合】

提言	努力課題	改善勧告
すべての分野共通	0.9未満	0.8未満

※2 定員充足率における私立大学等経常費補助金不交付措置の基準

年度	～2015	2016	2017	2018～
入学定員超過率	1.20以上	1.17以上	1.14以上	1.10以上
収容定員超過率	1.40以上	1.40以上	1.40以上	1.40以上

4.3 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基礎的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

取り組みを行っているか。	
①学生募集および入学選抜の結果について定期的に検証を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	S A B
<p>(～400 字程度) ※検証体制および検証方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。</p> <p>入学経路ごとの入学状況や学生の成績を教授会において比較、検証している。自己推薦等の特別入試に関しては、2017 年度に書類審査、筆記試験、面接の評価結果と合否決定について多角的な検討を行い、選考の在り方に関する検討を実施し、一定の改善を行った。指定校推薦の入学生については、入学後の成績等を検討し問題があるとみられる高校に関しては今後の推薦についての注意喚起を促す文書を 2017 年度に発出し、推薦入学者の質の確保につなげることとした。</p> <p>【2017 年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>2017 年度は、定員管理の厳格化に伴い、入試の状況を教員間で共有する必要性が高まったことから、入試に関する状況、データを執行部において丁寧に総括し、教授会でそれを共有し議論を行った。</p> <p>また、特別入試については、「キャリア体験特別入試（自己推薦）」と「キャリア体験特別入試（社会人）」の出願資格を見直すとともに、入試要項における各入試の説明文を修正し、学部を求める学生像を明確化した。</p> <p>指定校推薦に関しては、志願者が定員を上回る状況が続いていることから、指定校の見直しのために入学後の成績を個別に検討し、高校への注意喚起を行い、それでも改善が見られない学校について指定校から削除することとした。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2017 年度第 2 回教授会（2017 年 4 月 21 日） 議事録 ・2017 年度第 15 回教授会（2018 年 2 月 23 日） 資料 12 及び議事録 ・2017 年度第 16 回教授会（2018 年 3 月 16 日） 資料 22 及び議事録 ・2018 年度第 2 回教授会（2018 年 4 月 20 日） 議事録 	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
2016 年度入学数的大幅増加が学生の教育に不利益をもたらしていないかについて点検していく必要がある。兼任講師に依頼している演習については、2017 年度に質保証委員会において学生モニター調査を実施しており、その結果も踏まえ引き続きその質保証について適切に対応することとしたい。	

【この基準の大学評価】

<p>キャリアデザイン学部は、基礎知識の修得や関心・意欲の在処を明示した学生の受け入れ方針を設定している。定員に関して 2015 年度までは適正な入学数を維持してきたが、2016 年度は定員充足率が 1.43 となり、そのため指導の質の低下をもたらさないような様々な対策が講じられた。定員管理の厳格化により 2017 年度と 2018 年度の入学数は適正水準になったが、2019 年度以降も合格者数の決定にはいっそうの慎重さをもって臨むことが求められる。学生募集や入学選抜の結果は 2017 年度においてもきめ細かく検証され、その結果に基づいて選考方法の改善や出願資格の見直し、要項における説明文の修正など、さまざまな取り組みが行われており評価できる。</p>
--

5 教員・教員組織

【2018 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

5.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。
<p>【求める教員像および教員組織の編制方針】(2011 年度自己点検・評価報告書より)</p> <p>キャリアデザイン学部の教員に求められるのは、理念・目的についての基本的理解に立っただけで、自らの研究および教育を遂行することのできる高い能力と倫理性であり、学部の教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー</p>

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

を踏まえた教育活動や学生指導を行なう意欲と専門的な力量である。また、個人として研究・教育を遂行するだけではなく、教員間の組織的連携やチームとしての研究・教育の実施に積極的に参加し、貢献することが求められる。

教員組織の編制においては、各教員の専門性や適性を踏まえつつ、学部運営および教育においてその一翼を主体的に担えるように配慮すると同時に、教員間の組織的連携によって学部運営および学生に対する教育に学部全体で責任を負うという体制を築いていく。そのために、チームとして取り組む各種委員会活動やFD活動等を通じて、教員組織に「同僚性」の文化を育て、各教員の力量形成と教員集団としての教育力の向上が相乗的に期待できるような「学習する組織」を築いていく。

①採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていますか。

はい いいえ

【根拠資料】 ※教員に求める能力・資質等を明らかにしている規程・内規等の名称を記入。

- ・キャリアデザイン学部専任教員の任用に関する基準（教授会内規）
- ・キャリアデザイン学部教授・准教授への昇格に関する基準（教授会内規）
- ・キャリアデザイン学部任期付教員の任用に関する基準（教授会内規）
- ・キャリアデザイン学部非常勤教員の任用に関する基準（教授会内規）

②組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在をどのように明示していますか。

【学部執行部の構成、学部内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】 ※箇条書きで記入。

- ・教授会執行部 4名（学部長 1名、教授会主任 1名、体験型選択必修科目担当 1名、教授会副主任 1名）
- ・教授会（原則として月 2 回開催）
- ・教務委員会
- ・学部 FD ミーティング（定例年 3 回）：教育の進捗状況を組織的に点検。
- ・質保証委員会：学部全体については「自己点検表」を、各委員会等については「キャリアデザイン学部内部質保証・自己点検チェックシート」を用いて点検し、その内容を学部 FD ミーティングで報告し内容を共有している。

【明示方法】 ※箇条書きで記入。

- ・法政大学キャリアデザイン学部教授会規程

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・キャリアデザイン学部教授会規定
- ・2017 年度キャリアデザイン学部 内部質保証・自己点検チェックシート
- ・2018 年度キャリアデザイン学部 各種委員

5.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

①学部（学科）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。

はい いいえ

(～400 字程度まで) ※教員像および教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性、国際性、男女比等の観点から教員組織の概要を記入。

本学部の教育課程は、発達・教育キャリア、ビジネスキャリア、ライフキャリアの三領域からなる。学部設立時の構想を現在まで踏襲しており、教員組織は、3 領域のバランスが適切に配慮されている。専任教員 28 名、発達・教育キャリア 10 名、ビジネスキャリア 9 名、ライフキャリア 9 名となっている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・キャリアデザイン学部パンフレット 2019
- ・2018 年度キャリアデザイン学部履修の手引き「2018 年キャリアデザイン学部専任教員」 学部 - (141) - (156)

②教員組織の編制において大学院教育との連携を考慮していますか。

はい いいえ

(～400 字程度まで) ※教員組織の編制において大学院教育との連携にあたりどのようなことが考慮されているか概要を記入。

2013 年度にキャリアデザイン学研究科が大学院経営学研究科キャリアデザイン学専攻から独立したことから、それまで以上に学部教育と大学院との連携を図るようにしている。具体的には、学部教授会において毎回、大学院研究科長から大学院関係事項が報告され、学部全教員への周知と意思疎通を行っている。また、「学部改善計画 2015 検討会」では今後の学部と大学院教育との連続性や連携のあり方を確認し、具体的に検討することや、学部執行部と大学院執行部との懇談の場を設けていることとしており、2017 年度は 2 回の懇談会を開催した。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・キャリアデザイン学部改善計画 2015 中間報告書 (pp. 25-26)

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

2017年度専任教員数一覧

(2017年5月1日現在)

学部(学科)	教授	准教授	講師	助教	合計	設置基準上 必要専任教 員数	うち教授数
キャリアデザイン	20	8	0	0	28	17	9

専任教員1人あたりの学生数(2017年5月1日現在): 50.9人

③特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。 はい いいえ

【特記事項】(～200字程度まで) ※ない場合は「特になし」と記入。

新任教員の人事の際には、年齢バランスを適切化することに配慮した選考・採用を行っている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

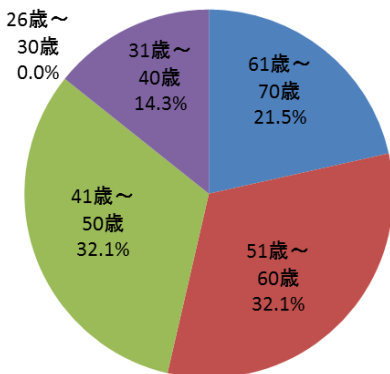
- ・大学評価支援システム大学便覧データ

年齢構成一覧

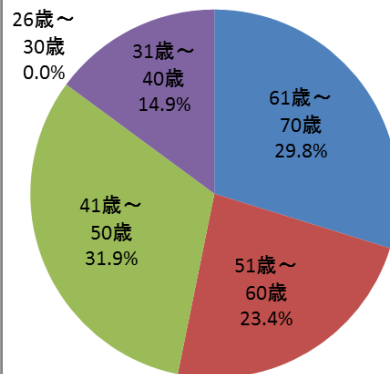
(2017年5月1日現在)

年度\年齢	26～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61～70歳
2017	0人 0.0%	4人 14.3%	9人 32.1%	9人 32.1%	6人 21.5%

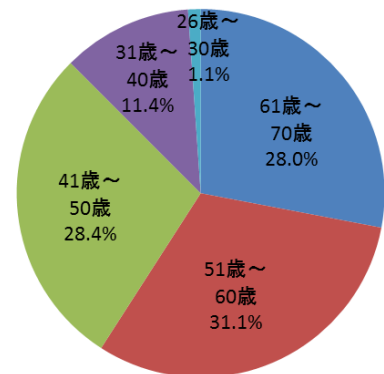
年齢構成比
(2017年度CD学部)



年齢構成比
(CD学部過去5年平均)



年齢構成比
(2017年度全学部平均)



5.3 教員の募集・採用・昇任等を適切に行っているか。

①各種規程は整備されていますか。 はい いいえ

【根拠資料】 ※教員の募集・任免・昇格に関する規程・内規等の名称を簡条書きで記入。

- ・キャリアデザイン学部専任教員の任用に関する基準(教授会内規)
- ・キャリアデザイン学部教授・准教授への昇格に関する基準(教授会内規)
- ・キャリアデザイン学部任期付教員の任用に関する基準(教授会内規)
- ・キャリアデザイン学部非常勤教員の任用に関する基準(教授会内規)

②規程の運用は適切に行われていますか。 はい いいえ

【募集・任免・昇格のプロセス】 ※簡条書きで記入。「上記根拠資料の通り」と記載し、内規等(非公開)を添付することでも可。

専任教員の募集は、原則として公募で行われており、専任教員の採用や昇格の人事は、学部教授会と研究科教授会が定めた内規に基づいて厳格に行われている。

5.4 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

①学部(学科)内のFD活動は適切に行なわれていますか。 S A B

【FD活動を行うための体制】 ※簡条書きで記入。

- ・学部FDミーティングは全専任教員およびキャリアアドバイザーを含めて定例的に年3回実施しており、そのほかにも随時必要に応じて会議を開催している。

【2017年度のFD活動の実績(開催日、場所、テーマ、内容(概要)、参加人数等)】 ※簡条書きで記入。

- ・学部FD定例ミーティング
第1回(4月1日開催、キャリア情報ルーム、出席者28名(欠席0名、公務出張者1名))

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

学部長から新年度の運営方針（2019年度大学認証評価を念頭に置いての自己点検の強化を含む）が示され、特に新カリキュラムを中心に各科目担当者から現状と課題、各委員会からの活動実績と活動計画、学部シンポジウム、キャリアアドバイザーの取り組み状況などが報告された。

第2回（9月22日開催、キャリア情報ルーム、出席者26名（欠席1名、公務出張者2名））

学部長から年度当初の学部計画の半年後の点検、質保証委員会による中間報告、教務委員会からゼミの状況報告（ゼミ募集に関して兼任教員担当の影響の検討を含む）、学部広報の進捗報告、就職支援活動報告（2017年度卒業生データの分析結果を含む）、キャリアアドバイザー制度運営委員会の中間報告、などが行われた。

第3回（2月23日開催、キャリア情報ルーム、出席者26名（欠席1名、公務出張者2名））

- ・内部質保証・自己点検チェックシートをもとにした評価についての報告。
- ・質保証委員会から今年度の学部教育活動についての評価と改善策が提起されて全教員に周知され次年度の課題を確認した。とくに2016年度の課題であった専任教員1名の欠員補充が適切になされたこと、また教員の事務的な負担が高まることによる教育研究活動への悪影響を回避するために、効率的な学部運営のあり方について会議資料のペーパーレス化を含む必要な施策が適切に実施されたことが確認された。

- ・質保証委員会より、大学予算の学生モニター調査（兼任教員担当ゼミを含むゼミ募集の在り方、活ゼミ活動の様子など）の報告がなされた。

- ・執行部より、改めて2019年度全学大学認証評価を念頭に置いた自己点検の強化について、教務委員会を含めた検討の依頼がなされた。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・FDミーティング資料及び議事録（2018年4月7日、同年9月22日、2018年2月23日）
- ・2017年度キャリアデザイン学部内部質保証・自己点検チェックシート

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
教員の事務的な負担が高まることによる教育研究活動への悪影響を回避するために、効率的な学部運営のあり方について会議資料のペーパーレス化を含む必要な施策が適切に実施されたことが確認された。	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

キャリアデザイン学部では、専任・兼任、任期付教員の採用や、教授・准教授への昇格について、求める能力や資質などが教授会内規で明らかにされている。

教授会執行部（学部長、教授会主任、体験型選択必修科目担当、教授会副主任、各1名）により教授会が原則月2回開催され、教務委員会、質保証委員会も適宜開催され、役割分担や責任の所在は明らかである。

同学部の教育課程は、発達・教育キャリア、ビジネスキャリア、ライフキャリアの三領域からなり、専任教員28名で、3領域の配分は10名、9名、9名となっており、カリキュラムに応じた組織が備えられている。ただし2017年5月1日現在の女性教員比率は35.7%、外国人教員比率は3.6%と決して高くないので配慮が期待される。

キャリアデザイン学研究科（大学院）が2013年度に設置されて以来、学部教授会にて大学院関係事項が報告されるなど、学部と大学院との接続が図られている。「学部改善計画2015検討会」では学部と大学院教育の連続性などについて確認され、学部と大学院それぞれの執行部が懇談会を開くなど、有機的かつ積極的な連携がみられ、評価できる。

年齢構成は40歳までの教員がやや少ないが、本学の全学部平均に比すればバランスが取れており、新任教員採用人事の際には年齢を考慮することで一層の適正化が見込まれるだろう。

教員の募集・採用・昇任に関する規程等は整備され、運用も適切に行われている。

学部FDミーティングは2017年度に3回開催され、毎回教授会構成員ほぼ全員が出席した。新カリキュラムの活動報告から質保証に至るまで、その活動は適切であるが、狭義のfaculty developmentとして教員の資質開発・向上に向けた研修会やワークショップの開催なども考えられよう。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

6 学生支援

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

6.1 学生支援に関する大学としての方針に基づきとしての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	
①卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況を学部（学科）単位で把握していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】 ※箇条書きで記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・学部として学籍移動(卒業保留・休退学者など)に関しては継続的に把握している。 ・退学者については、退学理由によって執行部が面談を行う体制をとり、留年者・卒業保留者・低単位取得者に対しては、キャリアアドバイザーによる面談を実施している。どちらについても継続的に実施している。 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・抽出資料及び本人宛通知（学務） ・2018年度 第1回 FDミーティング（2018年4月6日） 資料13「キャリアアドバイザーの活動について」及び議事録 	
②学部（学科）として学生の修学支援をどのように行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
（～400字程度まで）※修学支援の取り組みの概要を記入（取り組み例：クラス担任、オフィスアワー、学生の能力に応じた補習・補充教育、アカデミックアドバイザーなど）。 修学支援について、まず、1年次の基礎ゼミは必修で1クラス約20名の少人数で実施し、学習面はもとより、学生生活に関する社会面についてのガイダンスも行い、基礎ゼミは、高校までのホームルームの機能も兼ねている。基礎ゼミでは、大学での学びなかでもレポート執筆やプレゼンテーションスキルの構築を学修目的としている。選択必修の体験型科目では、担当教員の他、必要に応じてキャリアアドバイザーによる支援を受けられる体制を整えている。2年次秋学期以降については、所属する専門のゼミにおいて、ゼミ教員がクラス担任としての役割を担いつつ、卒業までの修学支援を継続的にしている。 また、授業外の修学支援（事前・事後学習支援）として、学部の専任・兼任教員ともにオフィスアワーを1時限（100分）程度設けている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・2017年度 キャリアデザイン学部内部質保証・自己点検チェックシート ・2018年度 第1回 FDミーティング（2018年4月6日） 資料13「キャリアアドバイザーの活動について」及び議事録 	
③成績が不振な学生に対し適切に対応していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
【成績不振学生への対応体制および対応内容】 ※箇条書きで記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・低単位取得者、留年者、卒業保留者については、キャリアアドバイザーが面談を行い、適切な対応をしている。 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・2018年度 第1回 FDミーティング（2018年4月6日） 資料13「キャリアアドバイザーの活動について」及び議事録 ・抽出資料及び本人宛通知（学務） 	
④学部（学科）として外国人留学生の修学支援について適切に対応していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
（～400字程度まで）※外国人留学生の修学支援に関する取り組みの概要を記入。 外国人留学生の修学支援に関しては、大学全体としての取り組み（例：グローバル教育センター）がある。学部としては、留学生からの要請があれば国際交流委員会が個別相談に対応できる体制を整えている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
⑤学部（学科）として学生の生活相談に組織的に対応していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
（～400字程度まで）※学生の生活相談に関する取り組み概要を記入。 学生の生活相談に関しては、1年次であれば前述の基礎ゼミ、2年次以降であれば専門演習ゼミとして組織的な対応をとっている。また、生活相談の中でも特に社会・心理面（人間関係・メンタル）に対する相談・ケアが必要な場合は、学部のキャリアアドバイザーや大学の学生相談室へのリファーレルを行える体制が整っている。生活相談（含：ダイバーシティに関する相談）における教員の対応の向上のために、学期始めのFDミーティングにおいて重点的な注意喚起・情報共有が行われている。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【**根拠資料**】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・2018年度 第1回 FDミーティング (2018年4月6日) 資料13「キャリアアドバイザーの活動について」及び議事録

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
<p>本学部では、キャリアアドバイザー制度があり、5名のアドバイザーが、学生の修学支援、学習支援をサポートしており、教職員だけでは対応が難しいケースについてもきめ細かく対処する体制ができています。キャリアアドバイザーは、5年任期で入れ替えもあるため、適切な人材の任用と同制度の効果的な活用を図ることが重要である。</p>	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
<p>・近年入学者が増える傾向にある留学生の実態を把握し、必要な対応を検討する。</p>	

【この基準の大学評価】

<p>キャリアデザイン学部では、学籍異動(卒業保留・休退学者など)に関して継続的に把握している。</p> <p>修学支援に関しては1年生の基礎ゼミが大きな役割を果たし、学習面だけでなく学生生活全般の相談に答えている。他にも体験型科目の担当教員やキャリアアドバイザー、ゼミ教員などが修学支援を継続的に行っている。オフィスアワーも適切に設けられている。</p> <p>低単位取得者、留年者、卒業保留者についてはキャリアアドバイザーが面談を行い、適切に対応されている。</p> <p>留学生の修学支援に関してはグローバル教育センターに依るところが大きいが、留学生からの要請があれば国際交流委員会が個別に対応する体制が整えられている。ただし留学生の入学が増加傾向にある状況に鑑み、支援体制の充実に向け今後一層の検討が期待される。</p> <p>学生の生活相談は基礎ゼミや専門演習ゼミの担当者に加え、教職員だけでは対応が困難な場合にはキャリアアドバイザーが受けることで支援が実現されている。</p>
--

7 教育研究等環境

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

7.1 教育研究を支援する環境や条件を適切に整備し、教育研究活動の促進を図っているか。	
①ティーチング・アシスタント (TA)、リサーチ・アシスタント (RA)、技術スタッフなどの教育研究支援体制はどのようになっていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※教育支援体制の概要を記入。</p> <p>大人数の授業や機器を使用する授業等を中心にティーチング・アシスタント (TA) を配置している。また、選択必修の体験型授業では、学生が、学外の機関と連携したり、国内外の企業へインターンシップに行ったりするなど、個別対応が欠かせないために、本学部独自のスタッフであるキャリアアドバイザーが授業支援を行い、円滑な授業運営につながっている。</p> <p>学部専用の教室・施設として、「キャリア情報ルーム」「キャリア・アクティブラーニング・スタジオ」が設置されており、関連資料の閲覧、グループ活動、マルチメディア教材を使用した学び等の場として活用されている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・TAの活用について：TA決済書 ・キャリアデザイン学部「キャリアアドバイザーに関する規程」 ・2018年度キャリアデザイン学部履修の手引き「キャリアアドバイザーより新入生のみなさんへ」学部- (36) ～ (43) ・2018年度 第1回 FDミーティング (2018年4月6日) 資料13「キャリアアドバイザーの活動について」及び議事録 	

(2) 長所・特色

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

内容	点検・評価項目
<p>学部独自の制度であるキャリアアドバイザー制度は、専門性を有する5名のスタッフ（5年任期）が学生の学びと成長を支援する役割を担っており、授業支援はもとより、学生生活全般や就職に関する相談や、イベントやセミナー支援を行っている。その活動は、キャリアアドバイザー委員会が管理・調整することに加え、FDミーティングにはキャリアアドバイザーも出席して活動報告を行うことにより、教授会で現状・課題を共有している。引き続きキャリアアドバイザーの専門性を活かして学部の活動を効果的に進めるという観点から、キャリアアドバイザー委員会を中心に活動内容や方法について検討、実行することが重要である。</p>	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・問題なし	

【この基準の大学評価】

<p>キャリアデザイン学部では、大人数の授業や機器を使用する授業等を中心にティーチング・アシスタント（TA）が配置されている。選択必修の体験型授業では学部の特徴的な個別対応が欠かせないため、キャリアアドバイザーが授業支援を行い、円滑な授業運営につながっている。キャリアデザイン学部独自のキャリアアドバイザー制度は、専門性を有する5名のスタッフが学生の学びと成長を支援する役割を担っており、大変優れた取り組みである。</p>

8 社会連携・社会貢献

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

8.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また教育研究成果等を適切に社会に還元しているか。	
①学外組織との連携協力による教育研究の推進に関する取り組み及び社会貢献活動を行っているか。	S A B
<p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>本学部では、学外組織との連携協力による教育研究には極めて積極的に取り組んでおり、具体的には以下のような活動がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブリッジワン・スタディ・サポートとして、東京都立一橋高校定時制課程・放課後学習支援活動を実施 ・福島県内のユネスコスクールやESDに関心の高い小・中・高校を対象に、福島ESDコンソーシアムを組織し、交流会、成果報告会を開催するとともに、大学生とともに東北の被災地の小・中・高等学校に対する教育支援活動、国際交流活動、ESD教育の実践を実施 ・島根県中山間地域の高校と連携した、高大連携のキャリア教育および地域づくり支援 ・認定特定非営利活動法人育て上げネットとの共同研究を通じた、支援機関を利用する若年無業者の支援 ・上記の個別案件以外に、体験型必修授業や演習（ゼミナール）活動のなかで、商店街の活性化や被災地域の復興支援活動、NPOや学校と連携した活動などを多数行っている。 	
<p>【2017年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブリッジワン・スタディ・サポート（東京都立一橋高校定時制課程・放課後学習支援活動）は2017年に実施された法政大学「自由を生き抜く実践知大賞」の教員部門にノミネートされ、その活動内容が学内外で高く評価されている。 ・2017年8月、島根県吉賀町と連携し、大学生と高校生、地域の人々の交流授業を実施した。成果はキャリアデザイン学部Facebookにて報告されたほか、専門誌『青少年問題』第669号に実践および研究報告としてまとめられている。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法政大学「自由を生き抜く実践知大賞」 http://phronesis.hosei.ac.jp/article/article-20171225111010 ・ドキュメンタリー映画『届け！僕たちのエール』（福島県の小学校に対する教育支援活動成果） ・jun sakamoto youtube チャンネル https://www.youtube.com/user/sjun120/featured ・福島ESDコンソーシアム Facebook https://www.facebook.com/fec.org/ ・キャリアデザイン学部ホームページ「ユネスコ福島ESDコンソーシアム」 	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

http://www.hosei.ac.jp/careerdesign/shokai/society/

- ・寺崎里水 (2018) 「特集 高大協力による地域人材育成プログラム」『青少年問題』第 669 号、pp. 28-33.
- ・田澤実・小坂淑子・新宅圭峰 (2017) 「支援機関を利用する若年無業者における G A T B」『日本キャリア教育学会第 39 回研究大会・研究発表論文集』 pp. 146-147.

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
<p>本学部では、体験型授業やゼミ活動を通じた学校や社会に対する支援はもとより、地域と連携した活動（学習支援活動、教育支援活動、キャリア教育支援）を活発に行ってきた。特に近年は、キャリア支援に対するニーズの高まりにより、教員の専門性に対する社会的要請が強まり、厚生労働省、財務省、経済産業省、金融庁、東京都、一般・公益社団法人等からの依頼を受け、審議会委員や専門委員、団体等の役員、研修講師などを務めている教員が数多くいることが本学部の特徴といえる。</p>	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
<p>多様な活動を実施しているが、個々の活動自体が学部で共有する仕組みが不十分であるため、活動のさらなる充実とともに全体での情報共有および連携が課題である。今後、これらを社会連携・社会貢献に関する取り組みとして位置づけるよう、認識を共有することが課題である。</p>	

【この基準の大学評価】

キャリアデザイン学部では体験型必修授業や演習などに於いて、学外組織との連携協力による教育研究活動がきわめて活発に展開され、先進的な具体例が数多く見られる点で高く評価できる。キャリア支援に対する社会的なニーズの高まりによく応え、多くの教員が審議会委員・団体役員・研修講師などを務め、教育研究成果は適切に社会に還元されている。こうした経験知を学部構成員で共有することなどにより、今後は個々・個別の活動を組織的な社会貢献活動に発展させることが期待される。

9 大学運営・財務

【2018 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

9.1 方針に基づき、学長をはじめとする所要の役職を置き、教授会等の組織を設け、これらの権限等を明示しているか。また、それに基づいた適切な大学運営を行っているか。

①学部長をはじめとする所要の職を置き、また教授会等の組織を設け、これらの権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
--	--

(～200 字程度まで) ※概要を記入。

教授会規程をはじめ、学部運営に関する規定について整備し、必要に応じ見直しを行いつつ、規定に則った運営を図っている。具体的には、執行部（学部長、教授会主任、教授会副主任、体験型主任、事務主任）において全体を統括しつつ、教授会で必要な事項を報告、審議することにより適切な運営を進めている。また、学部内委員会を 14 委員会設置し、各委員長の下で適切な運営がなされており、各委員会所掌のうち重要な案件に関しては教授会において報告・審議により決定している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・キャリアデザイン学部教授会規程
- ・2018 年度キャリアデザイン学部各種委員 一覧

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

キャリアデザイン学部では学部長と所要の役職（教授会主任、教授会副主任、体験型主任）が適切に置かれ、教授会や各種委員会組織も適切に設けられている。それらの権限と責任を明示した教授会規程や学部運営に関する規程が整備されており、必要に応じて見直しが行われ、規程に則った学部運営が図られている。

III 2018 年度中期・年度目標

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	2017 年度から実施している教育課程の効果を検証し、必要に応じてカリキュラム内容の検討を行う。
	年度目標	①2018 年度から実施する「キャリア体験学習（国際・台湾）」が初年度にあたることから、その実施状況の把握、点検を行う。
	達成指標	2018 年度の実施プログラムについて、執行部、国際交流委員会等がプログラムの実施状況を把握し、教授会で共有する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
2	中期目標	2017 年度から実施している教育課程の効果を検証し、必要に応じてカリキュラム内容の検討を行う。
	年度目標	②本年度で終了する「多文化社会における日本語教育」等の日本語教育関連科目 6 コマ（半期）について、適切な科目設定を行う。
	達成指標	教務委員会が振替科目の検討を行い、教授会で決定する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
3	中期目標	2017 年度から実施している教育課程の効果を検証し、必要に応じてカリキュラム内容の検討を行う。
	年度目標	③グローバル化に対応し、英語能力を有する人材育成を行う。
	達成指標	履修ガイダンスにおいて英語に関する説明を充実させ、選択型英語の受講者数を増加させる。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
4	中期目標	100 分授業の教育効果を高めるための教育方法について検討する。
	年度目標	各教員の実施する教育方法について、教務委員会を中心に、各教員の取組状況を把握・FD ミーティングで共有し、教育方法の改善を進める。
	達成指標	教務委員会を中心に取り組み状況を把握し、FD ミーティングで状況を共有し、改善に向けた課題検討を行う。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
5	中期目標	本学部の教育目標を達成するとともに、その教育成果を発信する。
	年度目標	①就職支援を充実させ、大学のキャリア支援策をリードする。
	達成指標	学部の特色を活かし、キャリアデザインという観点から学部独自の就職支援策を実施する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
6	中期目標	本学部の教育目標を達成するとともに、その教育成果を発信する。
	年度目標	②体験型科目に関しては、成果の可視化に取り組む。
	達成指標	体験型科目の成果報告集の作成、ポスターセッションの実施等により、多様な体験の内容を発表する機会を設ける。
No	評価基準	学生の受け入れ
7	中期目標	入学センターと連携しながら、定員管理の適正化及び入学者の質の向上に努める。
	年度目標	①入学者の定員管理を厳格に行う。
	達成指標	適切な水準での入学定員の充足を図る。
No	評価基準	学生の受け入れ
8	中期目標	入学センターと連携しながら、定員管理の適正化及び入学者の質の向上に努める。
	年度目標	②指定校、特別入試に関して、入学者の状況を適切に判断し、制度内容等についての検討を行う。
	達成指標	2019 年度入試において実施した特別入試の制度改正の状況をフォローするとともに、指定校学生の成績を継続的に把握して、適宜見直しを行う。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

No	評価基準	学生の受け入れ
9	中期目標	入学センターと連携しながら、定員管理の適正化及び入学者の質の向上に努める。
	年度目標	③志願者の安定的な確保に向け、学部の広報を積極的に行う。
	達成指標	学部広報として、ゼミ紹介等の動画配信、学部シンポジウムの充実を図る。
No	評価基準	教員・教員組織
10	中期目標	3つの領域の教員バランスに配慮し、教員の多様性を確保することに留意し、適切な教員の任用を行う。
	年度目標	2018年度から専任教員が1名減となることを踏まえ、適切な教員配置について検討する。
	達成指標	学部教育、資格課程、大学院教育における教員の配分の現状分析を執行部・教務委員会を中心に行い、必要に応じて配分の変更について検討を進める。
No	評価基準	学生支援
11	中期目標	学生支援の体制を整備し、多様な学生が意欲的に学べる環境を作る。
	年度目標	①外国人留学生に対する支援を充実させる。
	達成指標	留学生の課題等についての現状把握、分析を行う。
No	評価基準	学生支援
12	中期目標	学生支援の体制を整備し、多様な学生が意欲的に学べる環境を作る。
	年度目標	②キャリアアドバイザー制度の効果的活用を図る。
	達成指標	キャリアアドバイザー委員会が中心となって、キャリアアドバイザーの業務内容や業務フローを整理して、より効果的な体制のあり方を検討する。
No	評価基準	社会貢献・社会連携
13	中期目標	教育・研究を通じて社会貢献、社会連携を教育成果や研究成果を適切に社会に還元する。
	年度目標	①授業を通じた社会貢献、社会連携を図る。
	達成指標	演習や体験型授業などにおいて、社会課題をとらえた内容や方法を工夫し、社会貢献や社会連携活動を行う。
No	評価基準	社会貢献・社会連携
14	中期目標	教育・研究を通じて社会貢献、社会連携を教育成果や研究成果を適切に社会に還元する。
	年度目標	②「人生100年のキャリア」についての社会的関心が高まる中で、キャリア研究を社会に還元する。
	達成指標	学部シンポジウムで学部で実施してきた就職活動の研究を取り上げて課題提起をする。

【重点目標】

入学定員の厳格化を踏まえ、入学経路別の学生の状況を適切に把握し、入試制度を検討する。
また、教育課程に関しては、学部の特徴である体験型科目について、2018年度から開始する「キャリア体験：国際・台湾」のプログラムについて状況を把握することを含め、体験型科目の科目相互の情報共有・連携を図りながら、キャリアアドバイザー制度の活用を含めて効果的な展開のあり方について検討を行う。

【2018年度中期・年度目標の大学評価】

キャリアデザイン学部中期目標ならびに2018年度の年度目標・重点目標は、「キャリア体験学習（国際・台湾）」や特別入試の効果検証をめざすなど、いずれの項目においても具体的かつ適切である。学生の国際性を涵養する一助となる日本語関連科目に替わる、教育目標の達成に資する科目の検討はとりわけ重要であろう。年度目標として「大学のキャリア支援策をリードする」ことが掲げられている。その達成指標として実施される「学部独自の就職支援策」は大学全体でも採用可能な汎用性を持つものとなることを期待したい。

【大学評価総評】

キャリアデザイン学部では2003年度の設置以来、継続的かつ積極的に課題の把握につとめ対応・解決にあたり、高く評価できる。「キャリア研究調査法入門」（2017年度から）や「キャリア体験国際（台湾）」（2018年度から）を設置するなど、学部の理念や目的に合致した体系的で順次的な教育課程の整備が年々進んでいる。学生の受け入れに関しても、指定校や特別入試を含めた制度の検討が提起されており、受験生の減少という大きな流れの中で、時宜を得たものである。
今後は授業時間以外の学習時間（予習・復習）の確保、シラバスと授業内容の照合、個々の授業における成績評価や単位認定の適切性の検証、転・編入者および社会人特別入試による入学者の、他大学等における既修得単位の認定基準の策定な

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

ど、教育課程と学習成果に関してさらなる適切性を目指すことが望まれる。

なお「インターンシップ」と就職・採用活動との関係は文科省の「インターンシップの更なる充実に向けて議論のとりまとめ」（2017年）でも検討すべき課題とされており、キャリアデザイン学部として積極的かつ現実的な提言を行うなど、全学を牽引することを期待したい。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。